



自ら成長する力

会長 山口 祐一 (江戸川区立第四葛西小学校長)

「教師にとって最大の成功の証は、『まるで私が存在しないかのように、子供たちが勉強している』と言うことができることである。」

「子供は、自らを成長・発達させる力をもって生まれてくる。大人(親や教師)は、その要求をくみとり、自由を保障し、子供たちの自発的な活動を援助する存在に徹しなければならない。」

これは、イタリアの教育家、マリア・モンテッソーリ(1879~1952)の言葉です。小学校学習指導要領解説特別活動編を読むと、自発的、自治的という言葉が30回以上出てきます。児童が自ら成長していく力を発揮していける場を設定することの大切さ、その場でその機会を生かす適切な指導、助言をすることは、私たち教師の責任です。まさに、特別活動の意義を再確認し、いっそう実践をすすめるべきであると考えます。

昨年度まで3年間は、「よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方」を研究主題として、追究した結果、いじめの未然防止や教師の適切な指導や評価が、支持的風土を醸成し、望ましい集団づくりにつながるということが明らかになりました。

その研究を踏まえて、今年度は「自己有用感を高める望ましい集団活動」と設定しました。ここでいう自己有用感とは、自分と他者(集団や社会)との関係を自他ともに肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価のことととらえています。「自己有用感を高める望ましい集団活動」は、特別活動で身に付けるべき資質・能力が発揮されている活動です。そのような活動が展開できるようにするための教師の適切な指導や評価の在り方を追究していきます。本研究会は、よりよい指導の在り方を検討し、実践を通して検証していくことを目的としています。しかし、それだけではありません。誰にでも分かりやすく、すぐに実践に取り組むことができるように、活動のねらいや指導の手だて、工夫などをお伝えするという重要な目的があります。研究を「深める」として「広める」ことを大切にしながら取り組んでいきます。

今年度は本研究主題設定の1年目です。「学級活動部」「児童会活動部」「クラブ活動部」「学校行事部」それぞれの活動部の実践を通して研究主題に迫ります。成果だけでなく、様々な課題が生まれてくるかと思えます。その研究のまとめを、来る平成29年2月17日(金)に、江戸川区東部フレンドホールにて発表させていただきます。ご多用とは存じますが、ぜひご参加いただき、ご意見、ご感想などを賜りますようお願い申し上げます。

都小特活

第99号

東京都小学校特別活動研究会

平成28年9月発行

発行人
山口 祐一

本年度の研究の基調

研究部長 佐野 匡 (練馬区立豊玉第二小学校長)

1 研究主題

「自己有用感を高める望ましい集団活動」

2 主題設定の背景及び理由

昨年度までの3年間、「よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方」を研究主題として研究実践を進めてきた。その結果として、特別活動を通して「望ましい人間関係づくり」を目指していくことがいじめの未然防止につながることや指導者である教師の適切な指導や評価が互いを支え合う態度の育成やよさの認め合いにつながるということが各研究活動部の実践から明らかになった。また、活動の可視化の有効性についても探ることができた。

現在、新しい学習指導要領への動きが進んでいる。ここでは、現行学習指導要領が示す目標である特別活動において育成すべき資質・能力を、「人間関係を形成する力」、「社会に参画する力」、「自己を生かす力」の3つに整理することが考えられている。これは、本研究会がこれまで求めてきた資質・能力であると共に、中央教育審議会が論点整理で示した

何を知っているか、できるか(個別の知識技能)
知っていることやできることをどう使うか(思考・判断・表現力)

どのように社会や世界と関わりより良い人生を送るか(学びに向かう力や人間性)
という3つの観点と重なり、今後引き続き特別活動で培う資

質・能力となる。

また、これからの特別活動には「よりよい学級や学校生活づくりなど集団や社会に参画する力、諸問題を解決しよとする力」を、その先の社会づくりにつなげていくことや、一人一人はみんな違うことを前提にしながらも、合意形成を進めるよさを知り、その後の社会生活に生かしていくために、汎用性のある活動を展開していくことが求められている。

以上の事から、本年度の研究主題を「自己有用感を高める望ましい集団活動」と設定した。ここでいう自己有用感とは、人の役に立った、人から認められた、という、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価のことである。自己有用感を高める望ましい集団活動は、特別活動で身に付けるべき資質・能力が発揮されている活動である。研究を通し、自己有用感を育み、高めるための適切な指導・評価の在り方を探っていく。

3 研究の進め方

授業実践を中心に据えた実践研究
実践を裏付ける理論構成(深める)
汎用性・再現性のある提案(広める)

4 共通の研究の視点

可視化(構造化 操作化)
振り返り(自己評価と相互評価)

学級活動部

部長 山内 大輔 (大田区立馬込小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「もち味を生かし、
互いに認め合い高め合う学級活動」

1 主題設定の理由

自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性が十分に育っていなかったりする状況が見られる。学級においては「自分の言いたいことが言えない」「遊びであっても負けることが怖い」「『ありがとう』や『ごめんね』が言えない」「友達のよさを認めることができない」「前向きに活動できない」という実態がみられた。

学級活動部では、これらの問題の解決には自己有用感を高めることが必要であると考えた。そのためには学級活動を通して「一人一人がもち味を生かして活躍できる」ことや「仲間から必要とされていること、自分が役に立っていることを実感できる」ことが大切であろう。そこで研究主題を「もち味を生かし、互いに認め合い高め合う学級活動」とし、研究を進めることにした。今年度は自己有用感を高めるための可視化や互いに認め合い高め合うための振り返りに視点を当てて研究をしていく。

2 研究の視点

- ① 自己有用感を高めるための可視化の工夫
- ② 互いに認め合い高め合うための活動の充実

3 検証授業の予定

- 9月13日(火) 町田市立南大谷小学校
活動内容(1)
二本木 基 教諭(6年)
- 10月4日(火) 東久留米市立第六小学校
活動内容(1)
佐藤 麻美 教諭(1年)
- 11月8日(火) 大田区立馬込小学校
活動内容(1)
金澤 勇輝 教諭(5年)
- 11月24日(木) 葛飾区立西小菅小学校
活動内容(1)
兼近 真慈 主任教諭(6年)

児童会活動部

部長 大藏 久美 (小平市立小平第六小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「互いを認め合う
異年齢交流を深める児童会活動」

1 主題設定の理由

全体研究主題「自己有用感を高める望ましい集団活動」を受け、児童会活動部では「児童会活動における自己有用感」とは何かを考えた。

自己有用感を「自分は必要とされている」「自分は役に立っている」と定義し、それは他者に認められてはじめて得られるものであると考えた。学年や学級を超えた異年齢集団で行われる児童会活動では、自己有用感を高めるには下級生からの「あこがれ」の気持ちが必要である。そしてその「あこがれ」の気持ちを可視化して伝えることや、場の設定を工夫することで、自己有用感が育ち、高まりよりよい人間関係が築けると考えた。

そこで、研究主題を「互いを認め合う異年齢交流を深める児童会活動」と設定した。

今年度も以下のことに留意して研究を進めることにした。

- 「児童の発意・発想を生かした活動」の場を保障する。
- 「計画」から「振り返り」までの活動を一連の活動としてとらえる。
- 児童会活動の特質である「異年齢の人間関係」に焦点を当てる。

2 研究の視点

- ① 相手意識を育てる異年齢交流の在り方
- ② 自己有用感につながる「あこがれ」と「思いやり」の可視化の工夫

3 検証授業の予定

- 9月15日(木) 世田谷区立喜多見小学校(代表委員会)
宮田 有江 主任教諭
江川 慶伍 主任教諭
小林 恵 教諭
- 11月28日(月) 東久留米市立南町小学校(集会委員会)
森脇 雄史 教諭
筒井香央理 教諭
中野 弥浩 教諭

クラブ活動部

部長 中本 健太郎 (目黒区立鷹番小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「個性を発揮し、互いに認め合う クラブ活動」

1 主題設定の理由

本研究部では、過去3年間の研究を基に、今年度からは、本部会の研究主題を「個性を発揮し、互いに認め合うクラブ活動」と設定し、研究を深めていく。

クラブ活動の目標には、「よりよい人間関係の形成」「自主的実践的な態度を育てる」と併せて「個性の伸長」が示されている。本研究部では、「個性」とは、集団の中でよりよく発揮され、他者と協調できる個であると考え。例えば、「運動が得意」「司会が上手」といった秀でた技能や得意なこと、「思いやりがある」「縁の下でみんなを支えられる」「粘り強い」といった人柄など、集団の中で発揮される多様なよさを、個性として捉えている。児童が、望ましい集団活動を通して、互いの個性に気づき、その多様なよさを集団の中で発揮することで、自己有用感が高まると

考える。

自己有用感の高まりに焦点を当てた研究を進めるに当たり、児童一人一人の存在が肯定的に集団に受け入れられるような、望ましい集団活動が展開されるようにしたい。そのためにも、児童が様々な活動の場面で、より幅広い視点で、自他の個性に気付けるような手だてを考えたい。

2 研究の視点

- ① 望ましい集団活動をよりよく展開する可視化の工夫
- ② 自他の個性に気づき、認め合う振り返りの工夫

3 検証授業の予定

- 9月 9日(金) 品川区立大井第一小学校
(サッカークラブ) 瀧上 怜子 教諭
- 10月 17日(月) 墨田区立曳舟小学校
(ビーチバレーボールクラブ) 土谷 真紀 教諭
- 11月 7日(月) 江戸川区立第四葛西小学校
(演劇クラブ) 加藤 葉子 教諭

学校行事部

部長 原田 恵子 (大田区立入新井第一小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「自分の役割やよさに気づき、 互いに認め合い、活かし合う学校行事」

1 主題設定の理由

自己有用感を高めるには、学級や学年集団の中で、活かすことのできる自分のよさや役割を認識できていることが大切である。自分のよさを知るためには、児童一人一人の力を発揮できる場があること、発揮した力を認め合える場があることが必要である。そして、そのよさをみんなに認めてもらえているという安心感があってこそ、自分の力を発揮できる。自己有用感を高める望ましい集団になるために、一人一人のよさを互いに理解し合い、その力を活かしていかなければならない。学校行事では、自分や友達のがんばりやもっている力を活かし合う場を設定しやすい。より効果的に自己有用感を高めることができる手立てを模索し、実践していくことをねらい、このテーマを設定した。

今年度は、本研究主題での研究の一年目である。昨年度まで積み上げてきた手立てを重ねながら各行事の実践を研

究していくとともに、学校行事における自己有用感を高める場や具体的な手立てを検証していく。また、本研究会全体の視点を受け、評価の観点を見直し、改善するとともに、効果的な評価の在り方についても研究していく。

2 研究の視点

- ① 行事のつながりの中で、活動の見通しや、自分の目標をもつことができる指導の工夫
- ② 自己有用感を感じられる振り返りの場や観点の工夫
- ③ 自己有用感を高めるための可視化の工夫と活用

3 検証授業の予定

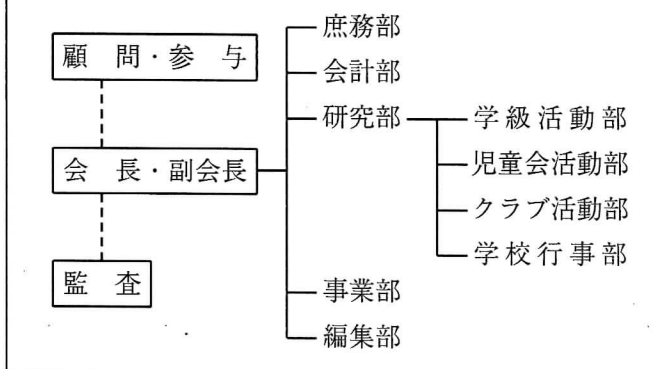
- 11月 4日(金) 中央区立常盤小学校 (6年)
移動教室の事後指導から学芸会の事前指導
清水 大翼 教諭
- 11月 14日(月) 北区立稲田小学校 (2年)
展覧会の事前指導
松本 明子 主任教諭
- 11月 22日(火) 東久留米市立第十小学校 (4年).
学習発表会の事後指導
上原 陽介 主任教諭

平成28年度 役員・部員名簿

◎校長 ○副校長 ◇主幹教諭 ◆指導教諭 □主任教諭

役職名	氏名	地区・校名	役職名	氏名	地区・校名
会長	山口 祐一	◎江戸川・第四葛西	事業部 部長	木田 明男	◎小平・小平第十二
副会長	持田 裕代	◎新宿・四谷	〃 副部長	新井 正一	◎新宿・落合第三
〃	清水 晶子	◎中央・有馬	〃 〃	佐藤 千晴	○瑞穂・瑞穂第三
〃	小島 みつる	◎北・稲田	〃 〃	田村 亜紀子	○東大和・第十
庶務部 部長	秋山 美栄子	◎目黒・東山	〃 部員	田所 貴美子	◇中野・新山
〃 副部長	中村 和弘	◎江東・毛利	〃 〃	斉藤 光代	□足立・東綾瀬
〃 〃	伊藤 幸一	◎東久留米・南町	〃 〃	高野 慶文	三鷹・第七
〃 部員	小川 直子	□大田・入新井第二	〃 〃	本橋 治	小平・小平第十二
〃 〃	平山 かおり	□目黒・東山	編集部 部長	赤羽根 智	◎東久留米・第六
会計部 部長	宮野 いずみ	◎江東・第二砂町	〃 副部長	篠 達司	◎足立・足立
〃 副部長	木村 夏子	◎世田谷・松沢	〃 〃	石田 孝士	◎世田谷・喜多見
会計(学級活動)	鈴木 聡	墨田・業平	〃 〃	大野 正人	○練馬・大泉北
会計(児童会)	山野 奈央子	□小平・小平第六	〃 部員	藤井 美貴子	□世田谷・中町
会計(クラブ)	瀧上 怜子	品川・大井第一	〃 〃	酒井 博子	東久留米・第六
会計(学校行事)	四本 真美	□世田谷・砧南	学級活動部長	山内 大輔	◇大田・馬込
研究部 部長	佐野 匡	◎練馬・豊玉第二	児童会活動部長	大藏 久美	◆小平・小平第六
〃 副部長	岡野 範嗣	◎大田・東六郷	クラブ活動部長	中本 健太郎	目黒・鷹番
〃 〃	氣田 眞由実	◎板橋・成増	学校行事部長	原田 恵子	□大田・入新井第一
〃 〃	吉田 有子	○清瀬・清瀬第三	会計監査	曾根 節子	◎港・赤坂
〃 〃	小山 晴美	◇豊島・池袋第三	〃	梶 千枝子	◎品川・旗台

[組織図]



編 集 後 記

会報99号をお届けします。
 公務ご多用の中、ご協力いただき
 ありがとうございました。

(赤羽根、篠、石田、大野、藤井、酒井)

